

事務事業名	市民会館自主事業				担当	教育委員会 文化課 管理係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-7731		
施策名	6	文化芸術の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	社会教育法					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和49 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4社会教育費	5市民会館費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供するため、自主事業基金（1,000万円）及び自主事業基金繰出金（200万円）を基に、自主事業の企画、運営を行う。事業の決定にあたっては、市民会館運営審議会及び市民意向調査、来場者へのアンケート等の意見を取り入れて決定する。入場料を徴収しているが、赤字の場合は自主事業基金繰出金で補填している。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 28年度実績 様々な年代、ニーズに合わせたジャンルの公演を行った。落語1回、こども映画会1回、舞台（ショー）1回、コンサート4回を開催した。 29年度計画 ミュージカル1回、舞台（ショー）3回、コンサート4回の開催を予定している。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	自主事業実施回数	回	3	6	5	7	7
	イ							
	ウ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	市民数	人	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542
	イ							
	ウ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 多くの市民に芸術文化作品を鑑賞していただき、芸術文化に対する理解と関心を持ってもらう。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	入場者数	人	2,756	5,758	4,022	5,250	5,500
	イ							
	ウ							
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 優れた芸術文化作品を鑑賞することにより、市民の文化意識の高揚を図る。	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	芸術文化活動に興味・関心のある市民の割合	%	62.9	64.6	64.2	62.9	62.9
	イ							
	ウ							

(2) 総事業費の推移		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	3,337	13,483	12,323	8,679
		一般財源	千円	1,917	2,784	6,582	1,123
		事業費計(A)	千円	5,254	16,267	18,905	9,802
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	1,080	1,080	1,080	1,080
		人件費計(B)	千円	4,389	4,559	4,525	4,485
		トータルコスト(A)+(B)	千円	9,643	20,826	23,430	14,287

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	優れた音楽や演劇、映画などの鑑賞と創造の機会を提供する目的で昭和49年11月に建設された市民会館の施設を活用した文化事業を展開し、市民が広く芸術文化に触れる機会の充実を図ることを目的として開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	余暇時間の増大や情報化、国際化の進展に伴い生活スタイルや価値観が変化し、物質的充実から生きがいやゆとりといった精神面の豊かさを求める方向に変わってきている。周辺に公立文化施設及び映画館が増加し、観客動員数が減少傾向にある。二宮町との合併により、自主事業基金を600万円から1,000万円に、自主事業基金繰出金を100万円から200万円に増額した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	入場者へのアンケートから、身近な場所で気軽に、多様で高度な芸術文化事業を低料金で数多く鑑賞できるよう期待されている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 芸術文化の振興は市の施策である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 芸術文化の振興は社会教育の一環であり、社会教育法に規定されているので、行政が行う必要がある。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市民の芸術文化の振興を図ることが目的である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 集客率が上がるような様々な年代、ニーズに合わせたジャンルの公演を行っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市民が芸術文化を鑑賞する機会が少なくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 芸術文化の振興が図れなくなる。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 芸術文化の振興を図るための必要最小限の経費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者が入場料を負担をしている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							